

# 陸生ホタル研

No141

2025年4月10日

陸生ホタル生態研究会事務局

電話：FAX042-663-5130

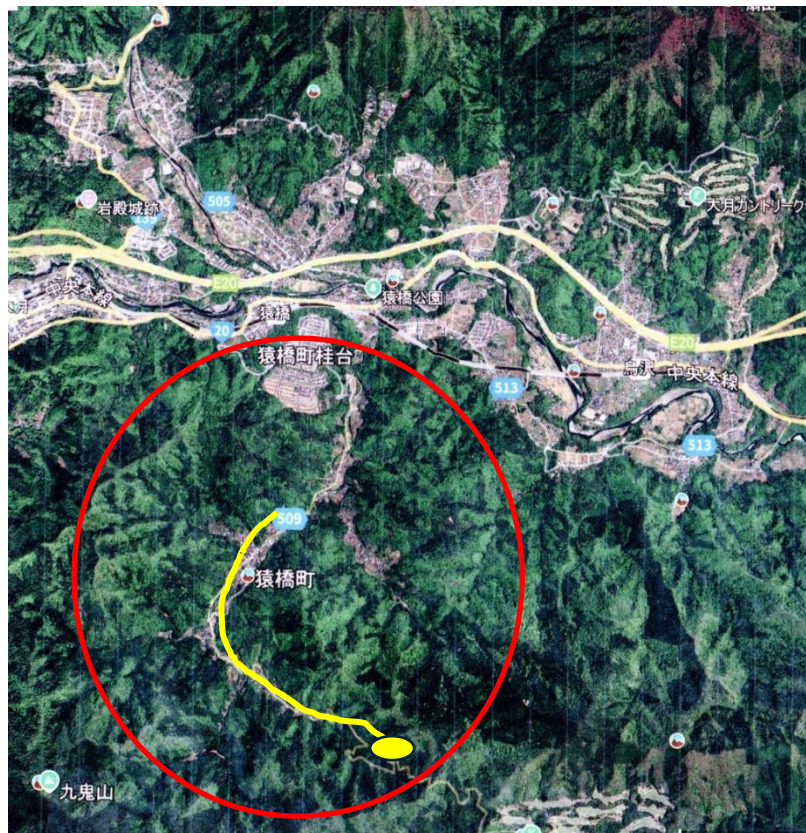
Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.ne.jp

フィールドからの証言 その33

## 朝日小沢の谷間から見えてくるもの

小俣 軍平

1：図 赤線内が調査地の朝日小沢地区、黄色線と黄色丸が鈴ヶ音峠、中央の太い線は中央高速道です。

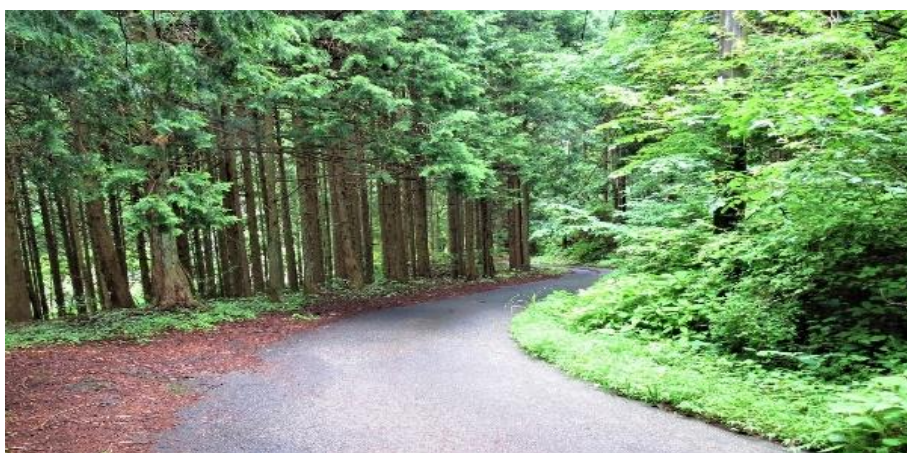


### 1.はじめに

山梨県大月市猿橋町の朝日小沢で、クロマドボタル幼虫の脊板斑紋の形が、無紋型ばかり生息していると判ったのは、2007年10月のことでした。このホタルについては、その後地元の自治会を中心に生息地の自然環境が大切に保全されて来られています。しかし、最近

の月報でも報告している様に、このところの地球全体規模の気候変動による生育環境への影響が、大変気になっていました。そこで、この3月25日に小俣が、7年ぶりに現地を訪れてみました。以下その結果の報告です。

2：図 2007年の8月に撮影した鈴ヶ音峠です。舗装道路に沿って、手前右側から下りへと、豊かな草むらが続いていました。当時4月末から11月のはじめまで、クロマドボタルの幼虫が点々と発光していました。県道の舗装道路の路肩に、陸生ホタルの幼虫が豊かに生息しているという例は、私達はこの18年間全国的にも、ここ以外に見たことがありません。

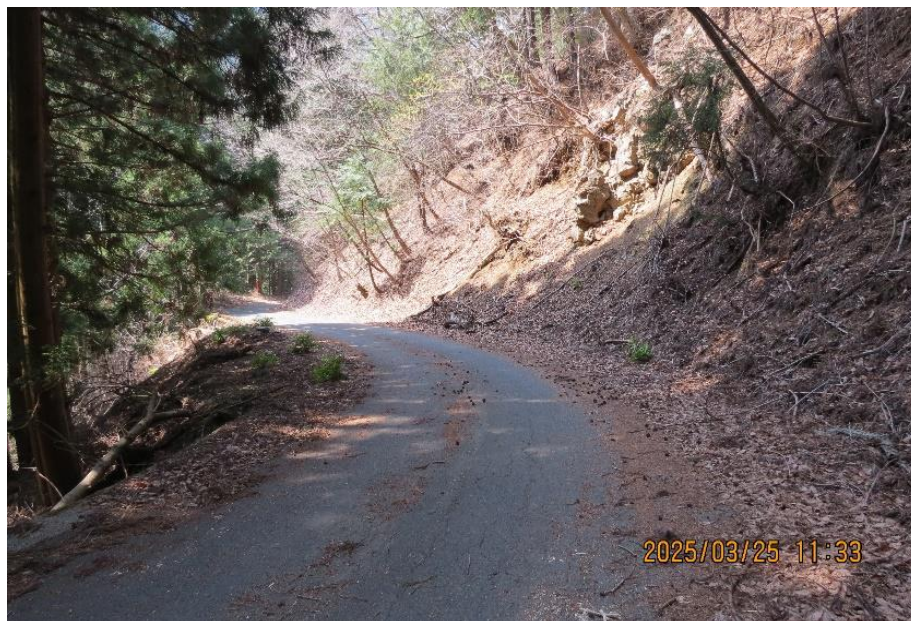


3：図 2025年3月25日に、2：図と同じ場所を小俣が撮影したもの。2007年の写真とは季節が夏と春とで異なりますが、杉の木や落葉樹林が成長して大きくなったこと以外は、自然環境に大きな変化は見られません。向かって右側の路肩の落ち葉の下にはクロマドボタルの幼虫がいると思います。

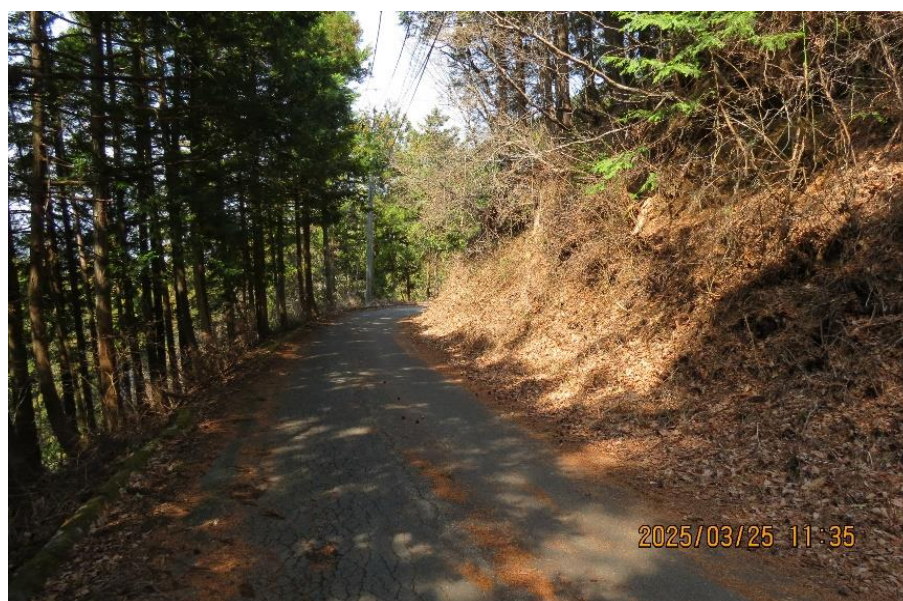




4：図 峠から1km程下った地点。山側の路肩、落ち葉の下にクロマド他3種くらいの陸生のホタルの幼虫がいます。

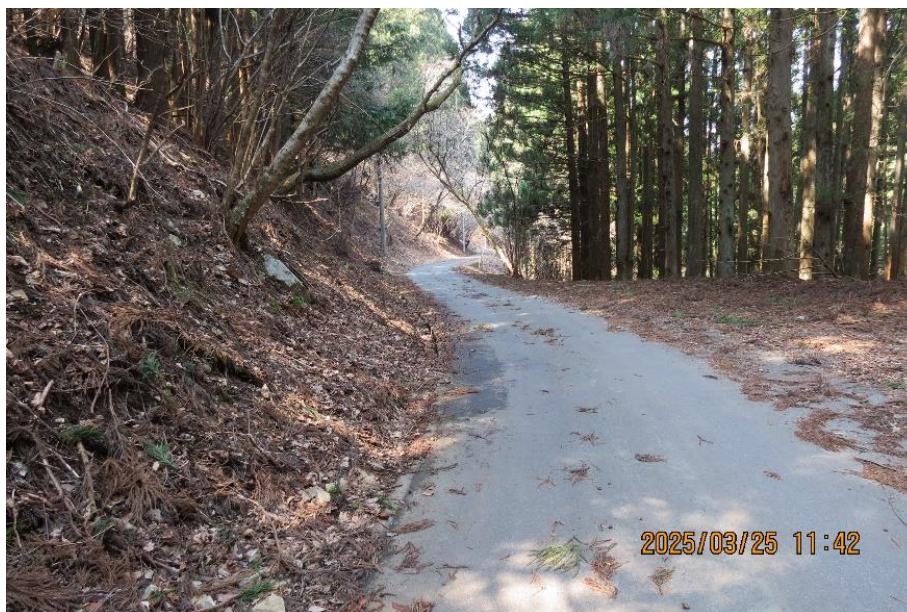


5：図 峠から1.5km程下った地点。以前と変わりなく良好な環境だと思われます。





6：図 手前から 250m 程続く左側の路肩の斜面にクロマド・オバ・ムネクリ・カタモンなど 4 種のホタルが見られた場所です。樹木が成長して大きくなっていること以外は、以前と変わった様子は見られません。



7：図 6：図から 300m 程下ってきた地点。樹林の樹木が密集して日射量は少なくなっていますが、それ以外は変わった様子は見られません。





8：図 杉の木は大木になりましたが、日差しは林床迄届いているので、3～4種類の陸生ホタルの幼虫たちが生存していると思います。



9：図 奥の白い斜面は、この林道沿いで初めて見られた 小規模な地滑り崩落です。保全のための土木工事が始まるのではないのでしょうか。





10：図 峠から3km程下ってきた集落の近く。

この山側には2、3種類の陸生ホタルの幼虫がいるかと思えます。



11：図 道端にこの地区の湧水を利用した上水道設備のマンホールがありました。





12：図 峠を下ってきて最初の家です。お訪ねしてみましたが人影はなく、留守番のワンちゃんが「ワン！！、ワン！！」と吠えていました。



13：図 集落に入ると、左下の水田が放棄されて草原になっていました。下の方に見える住宅は、空き家になっていました。





14：図 道下の竹林。タケノコ採りが無くなって竹の数が増え、藪になっていましたが、竹間に見える家には現在も人が住んでいるようでした。よかったです。



15：図 峠から下って4 km程、朝日小沢の中間点近くです。図中の木立は氏神様の森で、神社の隣に自治会館があります。18年前には、自治会によるクロマドボタルの学習会が開かれ、地元の皆様に何度もお世話になりました。





## 2. まとめ

猿橋町から旧秋山村に至る県道沿いの、鈴ヶ音峠から集落の中ほどまでの現状を、ざっと見てみました。陸生ホタルの生息地を取り巻く自然環境は、東京都下ではこの数年続く酷暑による影響で厳しい状況に追いこまれています。ここ朝日小沢の県道沿いでは、私がこの日に見た限り、倒木・なら枯れ・落枝による人身事故などは起きていないようで、「倒木注意」・「落枝注意！！」といった看板の類も見かけませんでした。沿道の自然環境に関しても、大きな変化は見られませんでした。こうしたことから、陸生ホタル、中でも特にクロマドボタルは、18年前と同じように豊かに暮らしているのではないかと思いました。

ただ、住民の高齢化は確実に進んでいるようで、峠から下るほどに空き家と、放置された田・畑が目立ちました。かくいう私も運転免許はどうに返納した身で、今回の調査にはバスを利用したのですが、朝日小沢には、中央線の猿橋駅からの富士急行の路線バス便が、午前中1本、午後1本と2本しかありません。しかも、この日午前9時過ぎの便に乗ったのは私一人だけで、他に乗客の乗り降りは無く、終点までノンストップでした。

ホタルの生態に関する自然環境調査報告のまとめには一見関係ないようなことまで書いてしまいましたが、陸生ホタルの中でも、里の人々が豊かに暮らす自然環境に密着して生息するクロマドボタルにとっては特に、高齢化による人里の衰退は、即時に生育環境の悪化につながります。そうならないように、老骨に鞭打って頑張らなければと思いました。

クロマドの生息状況については、今後5月初めに夜間の調査を行って、幼虫の発光観察で確認したいと思います。果たしてどんな結果になるのでしょうか……。

以下 余白



## 今坂正一様からの若い研究者へのメッセージ



小俣さんからの依頼による若い会員に向けてのお願いです。

アセスメント調査等、各種昆虫を扱っておられる方は、是非視野は広く持ちながら、そして、自身のメインにすべき分野は、ひとよりも深く、掘り下げて下さい。

一般に、専門職になればなるほど、ごく限られた分野のみに詳しく、その周辺分野については、ほとんど知識がないという状態に怠りがちです。

間口を広く持つ一方で、ある部分では自分以外には知り得ない深い情報を持っていると広さと深さの積は膨大となり、この組み合わせを数多く持つほど、全体としては自身の引き出しの中身がMAXになります。

そうなると、様々な未知の事柄に対しても累進が効き、ある程度できるようになります。ですからお願いします。1点をとことん調べることも重要ですが、併せて周辺の領域、或いは、一見、関係のない領域まで、可能な限り興味を持って、情報収集と整理を行って下さい。

いつ、どこで、何が役に立つか解りませんので、この点は、人脈も同様です。一人では何もできませんので。

以上



※ 会員の皆様方よくご存じの今坂正一様、福岡県久留米市にある「久留米昆虫調査会」神田左京の時代から100年にわたり甲虫の調査研究を続けておられて、毎年素晴らしい報告書を公開しておられます。副会長の今坂様だけでも39種類の新種を見つけられています。最近なんとも重苦しい国際情勢が続くなかで、若い研究者の方々に頑張っていたいただきたいと思い、今坂様からメッセージを寄せていただきました。有難うございました。

あとがき

4月、2025年度が始まりました。しかし昭和一桁生まれの世代にとっては、子ども時代の重苦しい国際情勢を思い起こすようなニュースがつづきます。そのためか、今年の春のソメイヨシノの桜は、きわだってまぶしく美しくみえました。

今年の春はなぜかスギ花粉が異常に多いらしく、私も歳をとって免疫力が落ちてきたせいでしょうか、生まれて初めて花粉症になりました。マスクと花粉除けの眼鏡が手放せません。

私の身のまわりの出来事ではもう一つ、高尾山系でも、このところ熊出没の情報が報告されています。そのため山地の陸生ホタルの休眠明けの調査ができなくなって困っています。皆様がお住まいの地域の状況はいかがでしょう。

去年は、酷暑による動植物への影響を報告してきましたが、私の住む街では、紅梅の開花に今年も異常が起きています。開花が一度に進まずにだらだらと1か月近くに及び、終わりまでに3か月もかかっています。まもなく陸生ホタルの幼虫が休眠明けになりますが、影響が心配です。

※ 寄付カンパのお知らせ

東京都青梅市の中嶋捷恵様の奥様より、30,000円の御寄附をいただきました。

陸生ホタル生態研究会ホームページの維持費として大切にに使わせていただきます。本当にありがとうございました。